

# 報告



## 野鼠類による「ブナの実」の置き忘れが寿都町のブナ林を再生する

— 寿都町の「ミズナラ巨木と攪乱地のブナ更新地」ミニ見学と調査 —

地域産業研究会

技術士（森林部門） 板垣恒夫

### 1. はじめに

昨年4月22日、地域産業研究会主催で“寿都町のミズナラ巨木と月越山脈のブナ林”の見学会を行ったが、雪解けが早く、ナガバネマガリダケの立ち上がりのためミズナラに到達できなかった。今回、雪解けを見越して早めの4月4日にミニ見学会“寿都町のミズナラ巨木と攪乱地のブナ更新地見学と調査”を実施した。

課題は、1) 北海道最大のミズナラ巨木を身近に観察する。2) 冬の月越峠周辺天然林を散策し、ブナ林分布の特徴を調べる。3) 寿都町のブナ林はどのようにして更新されるのか、攪乱地のブナ更新地を確認する。4) 雪上昼食会で参加者同士の親睦をはかる。

当日の天候は、時折日差しをみるがおおむね曇天でまあまあの日よりでした。

撈の後、板垣からスケジュール説明があり、調査用車両に分乗し月越峠へ向かった。

以下、午前中の見学会は、月越峠でミズナラ巨木観察、ブナ林散策、雪上での昼食会でした。午後は湯別の湯に移動し、小沢のブナ更新地・攪乱地のブナ更新地の見学を行った。最後に「湯別の湯」駐車場で蛭沢隆彦氏にご挨拶をいただき15時に解散した。柴田、岩村、板垣は、「湯別の湯」につかりながら反省会を行い帰札した。

技術士会からの参加者は地域産業研究会から柴田登、岩村俊二(奥様と参加)、安田伸生、板垣恒夫の5名でした。なお、北大地球環境科学研究所の春木雅寛准教授が二人のお嬢さんと参加された。寿都町からは、片岡春雄町長、早瀬良樹教育長、瀧山修市産業振興課長、森本昌和主幹、土開直樹主事、寿都町CLUB「風の学校」代表 蛭沢隆彦氏、同コアメンバーの三浦博貴氏が息子さんと参加された。飛び入りとして、島牧村から杉山幸代氏が参加された。



寿都町の位置

### 2. 17名の参加で見学会は大成功

4月4日10時半に「湯別の湯」駐車場に集合です。柴田登地域活性化分科会座長、片岡春雄町長のご挨拶



カンジキでミズナラ巨木へ

### 3. ミズナラ巨木の観察とブナ林散策・雪上での昼食

ミズナラ巨木に近い「道々美川黒松内線」の見通しの良い尾根台地(標高240m)に駐車し、カンジキやスノーシューあるいは長靴でミズナラへ向かいました。カンジキが初めての方もいて、教育長から履きかたを教えてもらっていました。ミズナラ巨木と周辺天然林の説明は、講師の蛭沢隆彦氏と春木先生が担当して下さいました。

#### (1) ミズナラ巨木

ミズナラ巨木の場所は、寿都町樽岸国有林3053林班に位置し、道々523号線を黒松内から島牧へ向かう途中の国有林内です。大きさは、幹周6.89m、高さ15mです。付近はダケカンバ(樹高19-24m)、ナナカマド、エゾイタヤ、ヒロハノキハダ、コシアブラ、シナノキ、アカイタヤなどが混生しており、林床は稈高240-310cmのナガバネマ加里ダケが優占しています。

#### (2) 月越ブナ林

月越峠ミズナラ巨木付近のブナ林は尾根から沢に

向かって北向き、傾斜約20度の斜面に位置します。尾根通りはダケカンバが多かったようですが、周辺の樹木の樹齢からみて40年くらい前に風倒被害を受け、尾根上部とさらに反対側の沢にかけては整理伐採後にトドマツを植栽したものと推測されます。ブナ林分は尾根の下方まで続いており面積約2haで、ブナの最大胸高直径は117cm、以下60-70cmで、樹高は最大で26m、以下20-24mと続く。観察される限りでは月越峠の付近の天然生林は、主尾根上部に近づくとブナが少なく、ダケカンバが多くみられるようになり、月越山脈は全体として主尾根とこれに続く支尾根上部は、中標高域に至るまで同様にダケカンバが優占しているのが特徴的です。各尾根付近におけるブナ林の植生の構成は比較的単純といえます。

林床の優占種は尾根上および尾根斜面でナガバネマ加里ダケが、また沢付近でクマイザサが優占しています。月越山脈上部域は、温帯性樹種であるミズナラ、シナノキ、カエデ類と冷温帯性樹種の代表格のブナが混生し、亜高山帯的要素のダケカンバも融合している特色ある地域です。

#### (3) 楽しかった雪上での昼食

月越ブナ林の緩傾斜地で「昼食」です。風もなく、和やかな雰囲気の中でお弁当です。春木先生はお二人のお嬢さんと、岩村技術士は奥さんと、三浦さんは4年生の息子さんとそれぞれの昼食です。写真は寿都町の皆さんが町長を囲んで昼食懇談です。虫除けスプレーの必要な暖かい時期ですと、こうは行きません。積雪は森林・林業にとって大変ありがた



ミズナラ巨木付近のブナ林



昼食風景

い。スキーやスノーシュで普段行くことの出来ない場所に行くことができるからです。

#### 4. ブナの更新

昼食を終えて、次は「攪乱地のブナ更新地」見学です。場所は、「湯別の湯」コテージ裏の小沢と、寿都葬祭場南西側の人為的攪乱地の更新地になります。皆さん春木先生のお話を興味津々聞き入っていました。

かつて、寿都町の山々には旺盛なブナ林が見られました。しかし、いろんな経緯のなかで、ブナやミズナラなどが伐採され、跡地にはカラマツやトドマツが植栽され、あるいは放置されてきました。一方、段丘面の緩傾斜地は農地として開発されました。高度経済成長時代が過ぎると、農地の多くが放棄され、二次林へと変化してきました。このような、一見ブ

ナ更新と関係がないような場所にブナの芽生えが見つかりました。

##### (1) 小沢に立地するブナ更新

「湯別の湯」コテージ裏(海拔高約13m)は落葉広葉樹林で、高さ2-2.5mの小沢沿いの台地上に樹高20mに達するブナの成木があり、稚樹群が生育しています。ブナは耐陰性が高く林内での更新は難しいといわれますが、ここでは、母樹の存在、タネが適度に供給されたこと、適度な陽光、斜面の土壌条件が幸いして密な更新が見られた。



小沢・台地上のブナ(母樹)



野鼠類による「ブナの実」置き忘れ稚樹群



ブナ稚幼樹群(橙テープ)



ブナ稚樹群はこんなに成長(高さ2-8m)

(2) 野鼠類の「木の実」置き忘れによるブナ更新  
森林動物のリス、ノネズミ、ウサギ類、とくにノネズミ類による秋の食用のタネ集積に起因した、置き忘れによる春先の発芽、更新があることが知られている。寿都葬祭場南西側の人為的攪乱地の更新地は親木からの距離の長さから推定して上述した動物によるタネの集積と置き忘れに起因したとみられる稚樹幼木群の定着成長がみられ、いずれも将来上木になると思われる大きさに達していることがわかった。



町民ウォーキングで解説中の蛭沢隆彦氏

## 5. おわりに

札幌市など大都市から見た市町村の「地域活性化」とは何だろうか、また、活性化のために技術士(会)は何ができるのだろうか。こんな課題で後志地方寿都町をフィールドに活動を続けてきた。寿都町には、蛭沢隆彦氏を代表とする「Club 風の学校」がある。寿都湾の豊かな海の恵みの基となる、森を育てるための森林保全活動や環境維持活動を民・官・学の協同行おうとする団体である。すでに学会などで報告済みの「ブナ北限の調査研究」などは後志森林管理署、寿都町、日本技術士会北海道支部の支援のなかで行うことができ、今後も続けることになっています。

地域活性化は、まず地域住民が地域の文化や資源について知り、理解するところがスタート地点かと思えます。観光などで外部からお金が落ちてきて、外見賑やかなだけでは活性化とはいえない。そんな協同活動の一つが、今回の見学会でした。また、この5月2日には、Club 風の学校主催「町民ウォーキング(カタクリ群生のなか緑を感じてウォーキング

しょう)」に参加してきました。昨年度には後志3町村(黒松内町・寿都町・島牧村)の協同会議が芽生え「北限地域のブナ林」をキーとして活動を始めました。大木になれば、地域の活性化が成功したことになるのでしょうか。とにかく「(社)日本技術士会北海道支部」の支援が欠かせないことは確かです。

## 〔文献と情報源〕

- 1：風と森と海のまちづくり 寿都町「Club 風の学校」  
<http://www9.plala.or.jp/club-kazenogakko/>
- 2：寿都町の「ミズナラ巨木と月越山脈のブナ林」見学から・何が見えたか？ 板垣恒夫 コンサルタント北海道 第115号 2008
- 3：平成19年度 寿都町森林資源調査報告 2008
- 4：北限地域寿都町管内のブナの立地環境と密な更新例 春木雅寛ら 日本森林学会北海道支部論文集 57 2009